

2022 年度事業報告

(令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

1. 庶務関係

(1) 会員数の状況 (令和 5 年 3 月 31 日現在) () 内前年同期増減

ブロック	正会員	学生会員	総数
東北・北海道	105 (-4)	6 (+2)	111 (-2)
関 東	443 (-4)	43 (+6)	486 (+2)
東 海・北 陸	127 (-3)	5 (+1)	132 (-2)
近 畿	231 (+1)	27 (+1)	258 (+2)
中 国・四 国	120 (-2)	12 (+1)	132 (-1)
九 州	103 (+4)	1 (+1)	104 (+5)
海 外	4 (±0)	0 (±0)	4 (±0)
計	1133 (-8)	94 (+12)	1227 (+4)

団体会員 157 団体、賛助会員 43 団体、顧問 3 名

(2) 代議員総会の開催

令和 4 年 6 月 5 日 (日) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom ミーティングを利用し、オンラインにて開催した。決議事項の投票は Google フォームで行った。

(3) 年次大会の開催

令和 4 年 9 月 2 日 (金)、3 日 (土) 近畿支部担当で、姫路市文化コンベンションセンター(アクリエひめじ)及び兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス(兵庫県姫路市)において、ハイブリッド方式で開催した。

(4) 一社)日本調理科学会創立 50 周年記念出版事業の継続実施

創立 50 周年記念出版事業として、記念出版委員会を中心に全国約 350 名の会員が活動中。「全集 伝え継ぐ 日本の家庭料理」(全 16 巻)の出版は昨年度終了したが、農文協が 9 月に公開した会員制データベース「ルーラル電子図書館」の「伝え継ぐ 日本の家庭料理」コーナーに、本に掲載できなかった料理を WEB 限定公開した。継続してコンテンツの充実に取り組んでいる。なお、『全集 伝え継ぐ日本の家庭料理』は(公財)辻静雄食文化財団が主催する「第 13 回辻静雄食文化賞」を受賞した。

(5) 一社)日本調理科学会創立 60 周年記念事業の準備状況

「調理科学の百科事典」を創立 60 周年記念事業の 1 つとして刊行することを理事会で承認し、編集幹事を中心に編集作業を進めている。

(6) 研究の奨励及び研究業績等の表彰

学会賞 1 名、奨励賞 1 名、功労賞 4 名の表彰を年次大会で行った。また大会において若手研究者発表奨励賞の投票を行い 4 名の表彰を行った。

(7) 会議の開催

① 理事会	4 回	② 編集委員会	5 回
③ 学会賞選考委員会	2 回	④ 刊行委員会	1 回

2. 企画・広報関係

(1) 年次大会、講演会、研究会企画を中心とした活動を行った。

(2) 6 月 5 日 (日)、講演会を Zoom ウェビナーにて開催した。「食べる～調理機器と調理法の過去・現在・未来～」を共通テーマとして、和田隆弘氏(前タイガー魔法瓶 常務取締役)に「古来の文化やマイスター(職人)に学ぶ調理器の変遷と進化」を、2021 年度日本調理科学会学会賞受賞講演として吉村美紀氏(兵庫県立大学環境人間学部教授)に「多様な調理法による食材の物性・嗜好性・咀嚼性について」ご講演いただいた。なお、これらの広報は、日本家政学会、日本食品科学工学会、日本応用糖質科学会、生活科学系コンソーシアム等にご協力いただいた。

(3) 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、2020 年 9 月に調理学実習を担当する会員を対象に「COVID-19 下における調理学実習の実施に関するアンケート」を実施し、同 10 月に「COVID-19 の感染症拡大防止に配慮した調理学実習実施のガイドライン」を発表したが、2022 年 4 月末にその後の経過と現状把握を目的に、再度アンケートを行った。103 件の回答を得、その結果を「With コロナの調理学実習に関するアンケート報告」としてまとめ、学会誌で公開し、生活科学系コンソーシアムで発表した。

3. 常置委員会関係

(1) 編集委員会 『日本調理科学会誌』の発行 年 6 回発行 A4 判

第 55 巻 第 2 号 1,600 部、第 3 号 1,600 部、第 4 号 1,600 部、第 5 号 1,600 部、第 6 号 1,600 部
第 56 巻 第 1 号 1,600 部

編集・刊行

① 論文投稿状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

報文 23 編、ノート 5 編、資料 7 編、教材研究 2 編 計 37 編

② 論文審査状況

区 分	掲載済	印刷待ち	著者取り下げ	却下	審査・訂正中	計
2020 年度投稿	24	0	3	7	0	34
2021 年度投稿	15	0	7	3	1	26
2022 年度投稿	5	7	4	10	11	37

③ 学会誌 55 巻 2～6 号及び 56 巻 1 号掲載発行状況

区 分	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	1 号	合計
報文	2	0	0	1	2	0	5
ノート・資料	3	2	1	1	2	1	10
特別寄稿	0	0	0	0	1	0	1
総説	0	1	1	1	1	1	5
講座	1	1	1	1	1	1	6
教材研究	1	1	1	1	1	1	6
クッキングルーム	1	1	1	1	0	1	5
トピックス&オピニオン	1	1	1	1	1	1	6
新刊紹介	0	0	0	0	1	0	1
ページ数	85	35	32	52	49	29	282

④ 学会誌は発行後 2 週間以内に電子版を J-STAGE にて公開した。

(2) 情報管理委員会

- ① 事務局と協力しホームページ等の管理、運用を行った。
- ② 2022 年度大会演題登録はアトラス社の Confit Submission を利用して行った。
- ③ メール・ニュースを 4 月 29 日号より 3 月 29 日号まで計 36 回 jscsnews:82～118(102 欠番)発行した。メール・ニュース用のアドレス更新を 4 回 5 月、6 月、10 月、2 月に行った。
- ④ 転載申請に対し許諾の判断を行った。場合により学術著作権協会への申請を依頼した。

4. 渉外関係

- (1) 日本学術会議協力学術団体として生活科学系コンソーシアムの活動を行った。
- (2) 下記の関連学協会等と事業の共催、協賛、情報交換を行った。
 (一社)日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本食生活学会、(一社)日本官能評価学会、日本熱物性学会、日本高圧力学会、(公社)日本食品科学工学会、(一社)和食文化国民会議、(公財)飯島藤十郎記念食品科学振興財団、(公財)塩事業センター、(公財)不二たん白質研究振興財団、(一社)日本レオロジー学会、(特非)うま味インフォメーションセンター、日本食品・機械研究会、日本熱測定学会、(公社)日本冷凍空調学会、(公財)ソルト・サイエンス研究財団、その他の学協会等

5. 研究委員会関係

- (1) 災害時メニュー開発に関する研究委員会は、2022 年度大会は 2019 年度大会以来の現地開催だったがコロナ禍の影響を鑑みて、デモ調理の実施を見送った。災害時に NPO キャンパーと連携する新体制整備を進めることが承認された。今後の活動方針については、2023 年度の年次大会で勉強会(仮)を開催し、決定する予定である。
- (2) 次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理研究委員会は、年次大会にて「地域の特徴」をテーマに e ポスター並びに現地でのポスター発表を行った(参加 47 都道府県)。研究委員会の活動は家庭料理研究委員の申請 5 件も含め「文化庁「知の活用」振興事例」の優良事例に選定され表彰を受けた。各都道府県の委員がこれまでの成果をまとめた「総まとめ報告書 2022 年度版及び CD」を製作し、研究委員会委員に送付した。2022 年度 3 月末にて研究委員会は閉会した。
- (3) 特別研究「多様な調理法と家庭料理の伝承」研究委員会は、調査チームと実験チームの研究組織を構築した。調査チームは全国で WEB 調査を実施し、支部単位で集計した。実験チームは支部にて研究テーマを検討し、実験に着手した。

6. 特別委員会関係

- (1) 刊行委員会は、創立 40 周年記念事業であるクッカーサイエンスシリーズとして 10 冊目「ふくらむ加熱調理ーコロケのはれつ・ドーナツのきれつー 長尾慶子著」を 8 月に刊行した。調理科学研究の情報発信の場、また調理科学を広く紹介する目的で、刊行事業は継続している。